

デジタル県へ加速

—RIST(くまもと技術革新・融合研究会)の役割—

熊本大学 理事・副学長(研究・社会連携担当)

松本 泰道



世界のインフォマティクス(IT, IOT, AIが関連する情報科学の総称)の発展には目覚ましいものがあり、この分野において日本は既にかなり遅れをとっている。同時に、これらの分野の発展に欠かせないインフラの整備も同様である。熊本県は、主に製造業、農業、そして観光からなる産業によって支えられているが、既に製造業や観光に対してはIT、IOTがそのベースになっている。一方、農業でさえも重要度が増しており、農業革命が起きようとしている。農業の担い手不足が、農業機械等の完全自動運転により解消されるかもしれない。完全自動運転は、自動車において進められているが、この場合には道路上の安全性の問題が極めて重要であるため、一番の課題となっている。一方、トラクターなどの農業機械の完全自動運転では、道路よりも安全性が確保しやすいことから、それらの進化は目覚ましい。また、自動運転のドローン技術は益々必要になってきている。農業や漁業の発展形である植物工場や昆虫工場、そして魚工場におけるインフォマティクスはさらに重要度が増す。

一方、その中のAIの進化も目覚ましい。医療情報分野から見ると、医者は、患者の症状に加え、血液、尿などの分析データに基づいて診断を下し、そのための治療を決定しているのであるが、それは、AIでも原理的に可能であるため、その研究は既に完成に近づいていると言われている。近未来では、各家庭にAI医者が設置(たぶんセンサ付

きスマホ)されるようになり、家族が急病の場合にはデータに基づき診断し、自動的に治療方法を決めて薬を薬局からもらいに行く、さらに重篤な場合には救急車を呼んで、適した病院へ搬送する。手術はロボットが行う。また、法律関係でも、AIが相談に乗り、最善の方法を提案するようになり、裁判もAIが行う。すなわち、我々の行動パターンはこれまでの経験に基づいて合理的に行動するのであるが、それはこれまでのデータの蓄積から最適な解を出してそれに沿って行動しているのである。ということは、あらゆる業務の大部分は、ビッグデータ処理からAIが決定してくれることになる。結果として、医者、法律家、経営者、金融関係者、さらには研究者でさえ大部分AIにとって代わる時代になるだろう。

さて、RISTはこれまで熊本の産業・技術革新のヒントになる活動を積極的に行ってきたと思っている。世界的なインフォマティクスの発展や普及に熊本県が遅れを取ってはならないよう、RISTが先導して欲しい。そのためには、熊本県産業界へ提言するだけでなくもう一歩足を踏み入れて、高度なインフォマティクスの指導・普及活動にもなお一層努めて欲しい。熊本県や市町村のITインフラ整備は熊本の未来に必須であり、それにより若者の定着も促進されるだろう。熊本を近未来の最先端デジタル県にいち早く変貌できるようにRIST30周年を迎えるにあたり特に期待する。